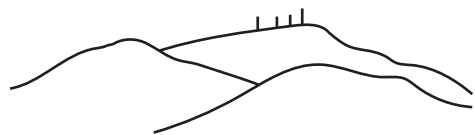


Youth Manna

2018/11/12-11/18



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2018/11/12(月)

箴言 21 章

2節をもう一度読もう。私たちは自分の行いや考えが正しいと思うし、それが当然のことだと思っている。正しいのは自分で、相手が間違っていると簡単に思ってしまう。でも一度立ち止まって、神様に心を向けよう。正しく裁く方、全ての人の心を見ておられる方を恐れる時に、私たちは本当に謙遜になれる。自分の正しさと神様の正しさがずれていたことに気づかされることもあるかもしれない。

悪しき者の道から離れるために、神様を見つめ、神様を愛することから始めよう。21節の義と恵みは神様からのもの。それが自分がいる場所にあるように熱心に追い求めよう！

2018/11/13(火)

箴言 22 章

へりくだりと主を恐れることには報いがあると4節にあるね。あなたがへりくだることが難しいと感じるのはどんな時だろうか？また、どんな人の前だとそれが難しいだろう？私たちは自分が高慢にならないように注意深く自分の心を見張る必要があります。

6節を読もう。「その行く道」とは神様が与えたその人の生まれつきの特質、そして神様からの使命のことを言っています。あなたには神様からの使命があり、目的があります。この世界に偉大なインパクトを与えるためにあなたは生まれました。神様にあつてのみそれが実現します。筆者は19節で「あなたが主に依り頼むことができるように」と言っているね。そのように今日歩めるように祈ろう！

2018/11/14(水)

II コリント 1:1-11

神様は、慈愛と慰めの父である。さまざまな苦難のなかでも、神様が一緒にいてくださり、慰め励まし、支え導いて苦難から救い出してください。パウロは、自分自身が通ってきたあらゆる苦難を通して、そのことの確信へと導かれた。そして、自分が神様の慰めを受けたのは、同じ苦難の中にある兄弟姉妹の慰め手となるためであると語る。キリスト者の道は主の後に従う十字架の道である。したがって、キリスト者にとって苦難は神への信頼を確かなものとする道であり、この苦難は希望へとつながっている。

①さまざまな試練や苦難のなかにあつても、家の教会の仲間とともに互いに励まし愛し合い、祈りあうものとさせてください。今日、あなたの愛をもっと知ることができるよう！

2018/11/15(木)

II コリント 1:12-24

15節からパウロは、コリント訪問を遅らせた理由について語っている。おそらくパウロを軽率で、前言をいとも簡単に翻す、いい加減な男だ(17節)と非難する者がいたのだろう。コリント教会の人々はパウロに対して間違った認識をした。

人が人を誤解し始めてしまうと、誤解を解きほぐすことは非常に難しい。一旦物事を思い込んだ人の心を変えることは至難の業といえる。しかし、パウロは、そんなことには動じず、パウロは、自分はそんな男ではない、むしろ、行くと言いながら行かなかったのは、前回の訪問が決裂し、散々な結果であったので、お互いにとって良い時を見計らっていただけだ、と(23節)理由を述べている。

神様にあつて正しい選びや行動をし、誠実な者として歩もう！！

2018/11/16(金)

II コリント 2 章

パウロはコリントの人々ではなく、教会全体が悔い改めることを求めました。パウロ自身もとても傷つきながらも愛をもって言葉を伝えました。教会に対するサタンの攻撃はお互いの罪を許す事が出来ない関係から始まる事もパウロは伝えていきますね！今自分が生活している中でサタンの攻撃だと思ふ事はありますか？聖餐式でも悔い改める事をしていきますが、月に1回の悔い改めになってはいませんか？日々私達はお互いの罪の部分を見てしまいます。しかし神様が自分の事を許してくれた様に、神様の愛によって許す事を経験しよう！15節にあるように「キリストの香り」を放つ者となろう！神様の前で誠実に生きる事が出来るように祈ろう！

2018/11/17(土)

II コリント 3 章

もともとユダヤ教律法学者として、人々を迫害し、人を罪と定めていたパウロ。その時の彼は古い契約に仕えていたけど、イエス様と出会ってからは、御霊に仕え人々をイエス様によって命へと導いていった。だからこそ彼は、どんなに大きな働きをしても、どんな成果が出ても、自分の力だと思わなかったんだ。

あくまで神様が自分を用いてくださっている。だから、教会を建て上げ、人々を救いへと導くことができているとパウロは語った。私たちも神様の御手の中で生かされ、働きが与えられていることを覚えよう。「こうであるべき」「こうしなきゃ」という自分で決めた形や周りの常識にこだわることはとても不自由だね。本当の自由は聖霊様のおられるところにあるんだ。17.18節をもう一回読もう！今日、主の自由の中で主と共に歩もう。主が私たちの日々を、人生を通して栄光を現してください！

2018/11/18(日)

II コリント 4 章

7節に書いてある「土の器」とは何でしょうか？それはとても弱く、外からの衝撃に耐えることはできず、ヒビが入りやすいものです。私たちもその「土の器」なのです。この体も、精神もそのものが弱いのです。ですが、神様はあえて「土の器」である私たちを選びました。神様の恵みを受けるに値しない私たちを。「土の器」の私たちでさえも神様は見放さず、私たちから神様の香りを放たせてくださいます。

私たちは「土の器」ですがそれぞれの役割があります。その役割を果たせるよう、どのように用いてくださるのか神様に聞きましょう。あなたにしかできないことが必ずあります！